

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300320		
法人名	社会福祉法人 博美会		
事業所名	グループホーム 富士の里		
所在地	静岡県富士市天間1627番地		
自己評価作成日	平成28年 2 月19日	評価結果市町村受理日	平成28年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2292300320-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成28年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りは、木々で囲まれており鳥の鳴き声が聞こえます。建物は平屋で木造、中庭もあり環境に恵まれた温かみのある施設です。
 近隣の利用者が多くご家族の面会、外出、外泊と協力して下さり家族との連携がとれています。年4回家族会を開催しています。
 機能低下を予防する為に、リハビリ体操、レクレーション季節に合わせた行事、外出を積極的に取り入れています。
 関連医療機関との医療連携、居宅療養管理指導により健康管理の支援体制が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が長い間培った努力の賜物だろうか、事業所と地域の協力や信頼関係は他に例を見ないほどで、それぞれの行事を共に楽しんで作り上げる「まさに地域密着実現のホーム」である。「よそにはない温かい柔らかい事業所」で「職員は自分で考えて行動できるように」との管理者の思いを職員が良く受け止めており、食事や記録・介護のどれをとっても真摯に取り組む姿勢が窺われた。資格取得にも前向きで、今回は4名が介護福祉士に挑戦し事業所全体でサービスの質の向上に努めている。家族アンケートにも全面的な信頼が寄せられており、外部からの訪問者にとっても学ぶことが沢山ある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を意識し家族や、地域の人達が安心して気軽に立ち寄れる場所作りを目指すことに取り組んでいます。	理念「家族を連れてくることのできる場所」は入職時や会議で共有し実践を図っており、利用者への支援はもちろん家族や地域・同業者等との関わり方や研修受講時等の真摯な姿勢に職員の自負が窺われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や施設行事に地域の方々の参加を呼び掛け地域交流を図っています。施設主催のまつりのバザーでは民生委員さんに全面的な協力を得ています。	区長や民生委員はじめ地域住民の絶大な協力のもと、利用者が地域と関わる機会は多く日々の暮らしや行事を楽しんでいる。法人の他事業所と連携し、地域と相互に必要な存在として交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	関連の医療法人では、認知症サポーター研修を行っており富士の里は来年実施するように計画をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会で意見を頂いた場合、職員会議で話し合い意見を活かせるように取り組んでいます。	小規模多機能事業所と合同で2ヶ月毎に開催している。地区連合会長や民生委員・家族・職員・市や地域包括支援センター職員等、多数の出席により活発な意見交換がされサービス向上に資している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて市の介護保険課、地域包括支援センターの職員より助言等を頂きより包括的な問題の取り組みに努めています。	運営推進会議への出席や市内グループホーム連絡会・利用者交流会等においてバックアップしていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を必要とするケースは過去にはなく現在も身体拘束を行わない支援をしています。外部研修に参加した職員が伝達研修を行い身体拘束ゼロの大切さを学んでいます。	職員は拘束についてミーティング等で学び実践している。スピーチロックとみなされる言葉には時々注意を促している。研修参加者の報告書には、拘束を真に理解しより良い事業所づくりへの決意が込められていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入所前に虐待の疑いのある方については、早めに入所判定会等にあげ入所を早めるなど防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を予定しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の状況に合わせて時間をかけ丁寧な説明をさせて頂いています。不安な点を残さないように契約後に改めて説明する機会も作っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年4回開催し意見を聞く機会を設けています。推進会議での意見、要望は職員会議で話し合い運営に反映させています。	家族会は報告会や敬老会・母祭り・年末清掃と行事に絡めており、利用者や家族・職員が関わられるように企画されている。職員も家族と関わる中で意向に沿った支援を模索し、その結果に仕事の喜びも見出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個別にヒヤリングを行い職員の意見の聞き取り施設側の考えも伝えています。	職員には年2回自己目標シートを作成してもらい、施設長やホーム長が面談をしている。職員が自分で考えて行動できるように支えつつ、事業所側の状況も伝えて協力関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標シートによる面談を年2回行い評価は、代表者管理者が行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の要望を聞き1人ひとりにあった外部研修に参加できる様にしています。キャリアアップの制度の導入をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会で実地する交流会、交換研修、研修会に参加しています。また、他事業所と交流を持ち情報交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前から本人と関わる機会を多く設けています。本人の思い等に耳を傾け問題点に気を配りながら安心できる場所になるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関わる機会を多くもち、思いや考え方等でできるだけ聞き出せるようにして信頼してもらえる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いを行い必要な支援内容を決めています。他のサービスも含め対応できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き等できる方には一緒に行って頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や一緒に参加できる行事の企画を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ボランティアの慰問や信仰の集い等今までの関係が崩れない様に支援しています。	家族と協力して、外食や外泊・墓参り等で過去のつながりが切れないように支援している。突発的な要望にもできる限り対応している。利用者個々の願いを叶える支援が計画されており、どんな企画が飛び出すか楽しみである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月、皆で一緒に行える行事を企画し、よい関係作りができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても何かあれば、連絡して下さいとお話しています。 気軽に立ち寄れる場所になるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族と話しをする機会をできるだけ設け思いを聞き取れるように支援しています。	日々の介護の中で利用者の言葉や行動・表情から汲み取り、日誌等に記録する事で職員全員の共有を図っている。家族からは来訪時や運営推進会議・介護計画作成時・年4回開催の家族会等、多くの機会に意向を聴取している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に今まで大切にしてきた事や物等、できるだけ聞き取りをしこれまでの暮らし方を継続していけるように話し合いをしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りにノート、話し合いの中で情報を共有し出来る事を探して伸す支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で1人ひとりについての話し合いを行っておりその時の意見をケアプラン等に反映しています。	月1回グループホーム会議で職員全員が個別ケースの話し合いを行い、ケアマネジャーは家族の来訪時に意見等を聴取し、毎月利用者全員のモニタリングを実施している。介護計画作成時は家族も可能な限り出席している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送り、申し送りノートにて情報を共有しています。その中で支援の見直しが必要との意見があれば計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時には、家族に代わり対応したり本人の希望が強い場合は買い物に出かけたり散歩したり柔軟な対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	信仰のある集まりや地域の行事等への誘いの連絡を頂いた時はご本人にお話し、希望のある場合は支援をさせて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご本人、家族で判断して頂いており訪問診療を受けている方には、日常の様子を診療の際に医師に報告している。訪問診療以外の方は変化がある場合は資料を用意し受診時に家族に持参して頂くよう対応しています。	協力医を受診する利用者が8人で、1人は従来からのかかりつけ医を継続している。協力医の往診が月2回あり、6人が受診している。他の3人は家族同伴で外来受診をしているが、ケアマネージャー等が同行する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	詳細な申し送りと看護日誌の確認等ナースと連携とり支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態の変化がある場合は、医療機関と連絡を取り、受診の対応をとります。又、必要なムンテラには参加するようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いの機会を設け、現在の事業所のできる範囲を伝え、家族、主治医による話し合いを行って頂き今後の方針を決めてもらうように支援しています。	今年度、協力医や訪問看護師そして家族の協力を得て、利用者ひとりの看取りを経験した。今後も家族の強い希望があれば看取りに対応する予定で、協力医や訪問看護師との連携のもと「重度化対応・終末期ケア対応方針」の作成を準備中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置や普通救命講習を職員が受けるようにしています。 又、講師を依頼しての研修会も行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画をたて、計画に沿って月1回訓練を行っています。また、講師を依頼して防災の研修会を開催しており具体的な避難経路の見直し等相談にもものってもらって頂いております。	毎月1回、年間計画に従い夜間想定避難訓練や消火器訓練、台風・風水害訓練、地震・火災訓練、伝達研修、消防署長講義等、種々の訓練や対策を実施している。地域の防災訓練には職員が参加している。	運営推進会議で防災訓練について自治会長や民生委員等に説明予定であるが、今後は防災訓練への地域住民の参加を呼びかける等、地域防災との連携を進めることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重しその場に応じた配慮や言葉かけができるようにしています。入職時は、プライバシー保護についての研修を行っています。	入居時及びその後の研修やマニュアルにより、利用者のプライバシー保護への配慮と一人ひとりの尊重は、職員間に浸透している。個人記録は、事務室内の鍵のかかる場所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で希望を伺ったり、自己決定して頂けるような声かけをするようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムや体調を配慮して無理のないよう過ごして頂いてます。体操、レクリエーション等本人の意向を伺って参加してもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべくご本人に選んで頂くようにしています。天候などその日に合わせて声かけをさせて頂いてます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回のセレクトメニューを企画し、ご利用者に好きな物を選択できるよう取り組みを行ったり季節感のあるメニューの提供に努めています。又、片づけはできる事をして頂くようにしています。	同一法人内ケアハウスの栄養士が作成する献立で、利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。毎月1回セレクトメニューがあり、2つのうちいずれかの食事を選択できたり、パン食も希望できる等の工夫がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスの良い献立を作り摂取量は記録に残しています。飲水量の少ない方には好きな飲み物を提供するようにしています。月1回体重測定を行い食生活の見直しも行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方には声かけしてご自分で行って頂いています。介助が必要な方はできる所まで行って頂き磨き残しのないよう一部介助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ1人1人のリズムを把握しています。できるだけトイレで排泄できるように声をかけをトイレまでの誘導をしています。	排泄チェック表により一人ひとりのリズムを把握し、できるだけトイレでの排泄が可能となるよう支援している。日中は、おむつ使用の1人とポータブル使用の1人を除き、他の利用者はトイレでの排泄をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らないように運動や散歩を取り入れてます。 又、栄養士に相談し食物繊維の多い食品メニューを検討し自然排便ができるような取り組みをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則2日おきですが、本人の体調や希望に合わせて支援しています。 入浴したくないと話があった場合はタイミングをみて柔軟に対応できる体制をとっています。	原則2日おきで、毎日3人ずつ主に午前中に入浴しているが、外出日の入浴等は利用者の希望や体調に配慮し柔軟に対応している。 入浴拒否の場合は、声掛けのタイミングを図ったり日を替えて声掛けし、入浴を勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活リズムを大切に、体操やレクレーションに参加できる方には参加して頂き身体を動かす事でよく眠れる様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導、ナースにて管理をしています。 薬の変更や症状の変化は申し送り等で報告し職員が共有しています。 服薬情報は個別にファイルしていつでも確認できるようにしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	小規模にボランティアさんの訪問がある場合声をかけて参加できる方は参加して頂き楽しんで頂いています。洗濯物干し、洗濯物たたみ等ご自分の仕事として行って頂います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた外出を計画し楽しんで頂いています。 中庭で日光浴をしたりお花や野菜の水やりも行っています。 外出については、ご家族も協力して下さっています。	年間行事計画に沿って、初詣や花見昼食会・工場見学・バラ見学・他施設との交流会・イチゴ狩り・紅葉ドライブ等で遠出している。また、近隣への散歩やスーパーへの買い物・家族との外出や外食・中庭での日光浴等で日常的な外出等も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度のお金を管理されている方が1名おられ自動販売機で購入される時には付添、見守りしています。 買い物、外食に出掛けた時はなるべくご本人が支払いただける様に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方が2名います。 ご本人がかけられる事もありますが、頼まれたりする時には支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースは環境と感染予防の為に清潔を保持できるように努めています。掲示物や行事の写真の展示で季節を認識をしています。	食堂や居間等の共用スペースには、ひな祭りや鯉のぼり・七夕・ハロウィン・クリスマス等の季節に合わせた飾りつけが月替わりで工夫されている。また、行事に参加した時の利用者の楽しそうな写真や習字の作品が掲示され、居心地よく家庭的な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いて過ごせるような環境作りに努めており、利用者の習慣に配慮しテーブルや椅子の配置を考えています。 利用者同士声を掛け合い良き関係ができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活して頂けるように大切な物、必要な物は持ち込んで頂いています。 居室内はご本人、御家族で配置して頂き気になる事が出てきた時には話し合いをさせて頂いています。	タンスや机・椅子・テレビ、自身の若い日や家族の写真・御朱印帳・ぬいぐるみ等、馴染みの物や好みの物が配置されている。利用者や家族の希望に沿って、ベッドや家具の位置変更には柔軟に対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下、浴室には手すりが設置してあり中庭は自由に出入りできるようになっており自立した安全な生活が送れるようにしています。		